

今月のコラム

SNSで自慢し合う若者たち

メネデール(株) 羽田一生



現在の日本では、高齢化が進み団塊の世代の引退により始められる家庭菜園が最大のターゲットと見られているようだが、果たしてそれで良いのだろうか。

中国では若者の消費が激しく、貯蓄をもしないと言われている「80后(80年代生まれ世代)」「90后(90年代生まれ世代)」を中心とした若者消費が経済全体をけん引している。これには、いわゆる「すねかじり族」が多く、本人の収入だけでは計り知れない消費性向を持つことも要因としてあるので、やや日本の風土とは懸け離れた感はある。しかし、今後我々の業界がさらに飛躍・発展していく上で、若者の消費は必須のターゲットではないだろうか。近年のオタク文化、特にAKB48の成功は、うまく若者の消費意欲を掻き立てるために創意工夫されたものだと思う。あの若者の勢い。あれは、後先考えず目の前の事だけに全てを注げる若者だからこそ出せるものである。我々の業界もいつまでも高齢層・中年層をメインターゲットとしてはいけけないのではないだろうか。

日本能率協会総合研究所が行った「『日中若者の消費意識』調査」(2006年2~3月、対象:23~28歳の男女合計約1,800人)によれば、現在の生活について「満足している」という若者は中国で65.5%、日本で49.8%と、中国の若者の方が“生活満足度”が高いことが浮き彫りになっている。この数字からもわかるように日本の若者は現状にまだまだ満足していない。そこで、その満足感を埋めるために、園芸が一役買えればおもしろいのではないかと思うのです。

話は少し逸れますが、私自身、26年間ラグビーというスポーツをやっております。俗に言うラグビー馬鹿です。ラグビーと言えば、『きつい』『臭い』『汚い』の悪いイメージの3Kで有名なスポーツですが、そういったスポーツでも競技人口は日本に12万人ほどいます。最近では7人制ラグビーがオリンピック競技になったこともあり、女子ラグビーも競技人口が増えつつあります。何が言いたいのか。体験したことがない人、興味がない人からすればイメージが良くないものでも、始める切っ掛けがあり、そしてその楽しさを体験できる機会さえあれば、それに関わる人口は増えるということです。自分で育てた野菜を食べた時の感動、思い通りに庭を花で彩れた時の喜び。そういったことを味わってもらえる機会創出を若者に対して、より積極的に行っていく必要があるように思います。

若者が庭やベランダのわずかなスペースで花を育てる。少ないお金を使って貸農園を借り、野菜を育てる。そして、見事に咲いた花や実った野菜をSNSにアップして自慢し合う。綺麗な花を育てることや野菜をしっかりと実らすことが一つのステータスになる。そんな一連の流れを創出出来れば、この業界はより強く、そしてより楽しいものになるのではないだろうか。

花や野菜の苗を買うために、日曜日の朝、園芸店に若者の行列ができる。そんな今では考えられない光景を頭に浮かべながら、新しいアイデアを皆で持ち寄ればと思う。

新規ご入会申込み ▶ 富士園芸資材(株)様



第7回 被災地小学校支援報告

平成26年6月30日

NPO法人ガーデンを考える会 会長 水野 隆

NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災地域の小学校に対する支援活動として、岩手県釜石市の小学校5校及び宮城県気仙沼市の小学校11校に、7回目の支援活動を6月の11～12日に行いました。

今回は気仙沼市の小学校10校を訪問し花苗や植え込み資材の提供を行い、気仙沼の大島小学校と釜石市の5校には運送便にて必要物資を送付しました。内容としましては、初夏から晩秋花壇向けのペチュニアを主体とした1年草花苗等を約3,300ポット、サツマイモやゴーヤ等の野菜苗を約500ポット、それを植え込むコンテナ235個、培用土650袋(14L)及び肥料500袋等、コンテナや花壇作りに必要な物資の支援や、一緒になって植え込み活動のお手伝いをするものです。

6月12日の当日は会員有志13名が2班に分かれ、1班は面瀬小学校・松岩小学校・九条小学校・小原木小学校・中井小学校・唐桑小学校を訪れ、2班は鹿折小学校・新城小学校・小泉小学校・津谷小学校を訪れました。当日はあいにくの雨で、予定していた花壇への植え込み活動が中止になる小学校もありましたが、3校では体育館等で児童と一緒にの植え込み活動を行いました。

支援活動は今回で7回目になり、緑のカーテンや野菜のコンテナ植えや菜園作りと、花苗で飾る以外の要望も増えてきています。また、今後としては、新しい花壇の製作や、プールの目隠しになる生け垣の製作とか、植物を使った花育授業とか、コンテナ植え込み活動とは違った要望もあることがわかってきました。

子供たちと一緒に花や野菜を植え込んでいると、想像以上に喜んで、しかも植物に興味を抱いてくれることが実感できます。植物が如何に人間に係わりが深く、花を愛でる楽しみや、食物としての大切さとか、周囲や環境を和ませる効果とか、一般的な授業だけでは学ぶことが出来ない様々なことを教えてくれていると感じさせられます。

支援活動の途中には陸前高田に向かい、会員の(株)シモジマさんの取引先である米沢商会の社長さんから震災当時のお話を伺う機会を得ました。被災直後はテレビ等の報道で、自社ビルの3階の屋上の給水塔の上につかまって「九死に一生を得た」とのことが大変話題になっていましたので、記憶に残っている方もいらっしゃるでしょう。

実際にお話を伺うと、緊急時の行動とか思考力が、如何に日常とは異なり、ほんの少しのことで全く違った運命になってしまうことがわかります。災害からのみならず、会社や社員を守ることの大切さ、事業を継続していくことの意味、あらゆる面を考慮した備え、等々、様々なことを考えさせられる1日でした。

今回も必要な植物・物資、またそれらを購入する資金を、ガーデンを考える会、会員有志及び園芸業界被災地支援の会から提供頂きました。ガーデンを考える会では継続的な支援活動を予定していますので、今回同様にぜひ、これらの活動に賛同し、ご協力頂けるようお願いいたします。



■今回特別に支援活動に協賛いただいた会員等の皆様

アップルウエア (株)、キムラグリーン (株)、(株)シモジマ、セキスイエクステリア (株)、(有)角田ナーセリー、中島商事 (株)、日本ポリ鉢販売 (株)、(株)ハイポネックスジャパン、(株)ハクサン、ハクサンインターナショナル (株)、(株)花ごころ、(株)フラワーオークションジャパン、(株)芳樹園、(株)牧野、(株)ヤマトコーポレーション、(株)ユニソフ、(有)緑花技研、(株)レイハウス、園芸業界被災地支援の会



丸の内仲通りガーデニングショー2014

ディズニーとコラボで開催

花と緑あふれる4月25日～5月6日、東京・丸の内がガーデニングショーで彩られた。毎年秋に開催されていた「丸の内仲通りガーデニングショー」が、今年から春に季節を変えて開催。今回は前回に続き、ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)協力のもと、開催テーマを「Wonder Garden～素敵な驚きに満ちた庭」に設定。ディズニー／ピクサーの映画をモチーフにした8つの庭が、東京駅前・丸の内仲通りを彩った。さらに、通り一帯には約1kmにわたり色とりどりのハンギングバスケットが飾られ、都市に花と緑の空間を展開した。



丸ビル前に登場したトイ・ストーリーをモチーフにした庭



約1kmにわたりハンギングバスケットで通りを彩った

夏花フェスタ～ペチュニアコレクション～

サンシャインシティで種苗7社が出展

「サンシャインシティは花ざかり! 2014」を展開しているサンシャインシティ(東京・池袋)は、花イベントの1つとして「Summer Garden 夏花フェスタ～ペチュニアコレクション～」を5月29日～6月1日の4日間、サンシャインシティ展示ホールにおいて開催した。



3回目の今年は、(株)エム・アンド・ビー・フローラ、(株)ゲブラナガトヨ、(株)サカタのタネ、サントリーフラワーズ(株)、高松商事(株)、(株)ハクサン、横浜植木(株)の種苗メーカー7社が一堂に集って展示された。

夏花は、2020年の夏に東京オリンピックが開催されることになって、俄然、注目されだしており、夏花のトライアルが五輪会場の東京・お台場地区でも展開されている。

(公社)園芸文化協会、70周年記念式典

安倍総理大臣夫人などを迎え、盛大に挙行

今年4月、社団法人から公益社団法人に移行した園芸文化協会(保坂三蔵会長)は、5月29日午後、上野精養軒桜の間において、創立70周年記念・公益社団法人移行祝賀会を約180名出席のもと、安倍晋三内閣総理大臣令夫人安倍昭恵氏を主賓として盛大に開催した。

祝賀会は、NHKテレビでおなじみであり理事である須磨佳津江氏が司会となって進められ、会長挨拶では「会は大正6年に発足した帝国愛蘭会がルーツで、第2次大戦で日本が戦火に包まれるなか、種苗を始め園芸文化の消滅を危惧した島津忠重公爵など有志が昭和18年に設立総会、19年に認可された」などと述べた。



多くの人たちが祝いに駆けつけた祝賀会



豊明花きの輸出への取組み

豊明花きの輸出への取組みは中国大陸の旧正月需要に合わせた日本産のシンビジウムの輸出から始まり、10年以上の経験を持っている。2008年からは中国以外の販路開拓に取り組み始め、現在では香港、シンガポール、中東、ロシアなどにも販路が広がっている。取り扱う商品も、鉢物・切花・植木と多種多様にわたり、特に鉢物ではシンビジウムのみからスタートしたものが、現在では洋ランも他属に広がり、旧正月贈答用のみの大型サイズのものばかりでなく、通常期では小型サイズの商品にも需要が広がりつつある。さらに、観葉植物や鉢花、さらにはポット苗まで輸出商材の幅は広がってきている。

オランダや中国、東南アジアなど他国と比較し、日本産花きの輸出における特徴は、1生産者当たりの生産が小ロット多品目が基本であり、さらに日本全国に生産地が分布しているという点である。このため、年間を通して多様なアイテムを輸出し続けるためには、これらを取りまとめることができるポジションが欠かせず、日本の場合は国内流通のハブである卸売市場がこの役割を果たすのが最適と考えている。

鉢物の輸出では、輸出相手先の条件に合わせ、検疫に合格することが最初の大きなハードルとなるが、豊明花きでは日頃の花き生産者の皆様との繋がりを活かし、輸出可能なアイテムの幅を広げてきた。また、ほぼすべての検疫を市場内で受けており、商品の入荷から検疫、梱包、出荷まで一貫して管理できる体制をとっている。さらに、国際輸送においても航空会社や混載業者と密に連携を取り、優れた日本産花きを最高の品質で相手国に届けられるように、日々取組んでいる。

さらに日本産花きの輸出拡大に向けて、日本全国の輸出に関心を持ち積極的に海外に展開していこうとする花き生産者と、輸出者であり日本全国の花き生産者と日頃から取引を行っている卸売市場が中核となって組織している全国団体、一般社団法人日本植物輸出協議会に、豊明花きも参画している。主に国内外でのプロモーション活動による日本産花きのジャパン・ブランドの確立を目的に活動しており、現在100を超える花き生産者や生産者団体、行政関係者や関係官庁などが会員として参加している。

今年度から始まった農林水産省の国産花きイノベーション事業や花き振興法の成立も受け、都道府県単位で輸出を拡大するための取組が始まりつつある中、日本植物輸出協議会では、これまでの取組みの結果得たノウハウや販路を活かして、輸出拡大に取り組みたい都道府県の活動も積極的に支援していく。

一般社団法人 日本植物輸出協議会 会員募集

(一社)日本植物輸出協議会は、日本産花きの輸出拡大に特化し、尚且つ法人格を持つ日本唯一の団体です。現在、花き輸出に関心のある花き生産者・農協等生産団体関係者・花き行政関係者の新規会員を募集しています。会員になると海外プロモーション活動の案内や各種情報提供、海外バイヤーとの交流の場や視察ツアーへの参加など、様々なメリットがあります。会費は無料ですので是非ご検討ください。詳細につきましては協議会公式ホームページをご確認ください。

お問い合わせ先	〒470-1141 愛知県豊明市阿野町三本木121 一般社団法人 日本植物輸出協議会 事務局 担当:佐々木・重村	TEL:0562-96-1187 FAX:0562-96-1192 Email:info@jpec2012.jp HP:http://www.jpec2012.jp
---------	---	---



会員紹介

株式会社 誠和

弊社は庭の設計施工、エクステリア資材の卸・販売の会社として、1986年より営業しております。

2012年7月には、「家族でお庭を楽しもう」をモットーにお客様により身近にエクステリアを感じて頂けるようPOTOS HOUSEをオープン致しました。

主軸はもちろんエクステリアの設計・施工ですが、お庭の使い方の幅を広げて頂けるよう、輸入ガーデンツールやガーデンファニチャーをはじめ、お庭に関する雑貨販売も行っております。

お庭に関する困り事があった時、気軽に立ち寄って頂ける地域に密着したお店を目指しております。



POTOS HOUSE (ぼとすハウス)	〒470-0136 愛知県日進市竹の山四丁目 2401 番地 TEL:0561-75-5170 HP:http://www.potos-house.com/
-------------------------	---